

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成29年度分）

団体名：精華町

プロジェクト名	未来をひらく人材育成のための環境整備プロジェクト	実施期間	平成28年～30年	テーマ	その他（教育）	新規・継続の区分	継続
地域における現状、課題及び住民ニーズ	関西文化学術研究都市に位置する本町では、世界最先端の科学と文化が集積する先進的な教育環境の中で、時代の変化に柔軟に対応した教育を推進し、確かな見通しを持って主体的に生きていける人、創造性あふれる心豊かな人を育成するため、教育内容や教育環境をさらに充実させることが求められている。学校生活における熱中症対策や、緊急用施設用備品の点検・設置不備等全国的な課題に率先して取り組み、すべての生徒・児童が心身の健康を損なうことなく一人ひとりが適切な支援を受けながら勉学に励める環境を整備し、共生社会実現をめざした支援・対応を行う必要がある。						
プロジェクトの目的及び概要	ハード面においては、生徒・児童が集中して勉学に打ち込めるよう、空調やAED設置等生徒・児童の命を守る取り組みを中心に、ソフト面においては、学研都市という立地を生かしたユニークな学びの機会の提供、いじめ対策や学級支援員の配置等共生社会を目指す取り組みを中心に環境整備を行う。これら教育環境の向上につながる諸施策を実施することにより、学力向上を目指すのみならず、共生社会で活躍することのできる人材の育成を目指す。						
	総事業費（千円）	346,860	本年度事業費（千円）	11,806	交付金額（千円）	1,764	
プロジェクトを構成する事業の平成29年度事業実績（出来高数値等）							
事業分類	事業名	事業種別	事業概要		主な実績（出来高数値等）		
市町村実施事業	小中学校AED設置事業	交付対象事業	緊急時の迅速な対応に備え、小中学校8校に各1台ずつAEDを設置。		小中学校8校に1台ずつ設置		
	小学校空調設備整備事業	交付対象事業	安全な学習環境整備のため、小学校5校の空調設備整備に向けた設計業務。		国の交付金の前倒しによる内定を得ることができ、平成30年度当初からの発注に向けた準備を整えることができた。		
	小中学校施設安全性改善工事業	交付対象事業	学校施設の衛生・安全性の改善工事。		東光小学校給食室調理員用便所改修工事完了 小学校5校と西中・南中の消防設備機器機能改善工事完了		
	学級支援員配置事業	関連事業	特別な支援を要する児童生徒の安全確保と学習環境の整備のための支援員の配置。		特別学習支援員11名、介助員5名配置		
	中学校空調設備整備事業（繰越）	関連事業	安全な学習環境の整備を目的とした、中学校3校の空調設備整備工事。		空調設置完了		
	川西小タブレットPC等購入事業	交付対象事業	ICT教育や効率的な学習のため、タブレットPC等を購入。		タブレットPC及び周辺機器を40台購入		
住民協働事業	中学校給食基本構想策定事業	交付対象事業	学校での食育推進や中学校給食を見据えた基本構想の策定。		-		
	地元米購入補助事業	関連事業	小学校給食における地元米等購入補助。		地元米年間23,022kg購入		
住民が取り組む事業	いじめ等対策事業	関連事業	各小学校にスクールカウンセラーの専門職を配置。		スクールカウンセラー3名を雇用、5小学校へ配置		
	学校支援地域本部事業	関連事業	各中学校区にて学校支援ボランティアの協力のもと行う、学校・家庭・地域の連携による教育支援活動。		地域コーディネーター3名、ボランティア参加者延べ人数885名		
	精華まなび体験教室事業	関連事業	各小学校区にて子どもたちの安全・安心な居場所を確保し、文化活動やスポーツ活動などを地域の方々の協力を得て実施。		参加児童延べ人数2,630名		
成果指標①	成果指標の目標数値	普通教室空調設備設置率 18%		成果指標の実績値 (H30年3月31日時点)	44%		
	成果指標の達成状況	◎	(左の理由)	目標値を上回ったため。			
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期	(理由)	(時期)				
成果指標②	成果指標の目標数値	学力テスト平均点（中学校） 71点		成果指標の実績値 (H30年3月31日時点)	67.5点		
	成果指標の達成状況	△	(左の理由)	前年度実績値（70.5点）を下回ったため。			
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期	(理由)	(時期)				
成果指標③	成果指標の目標数値	学力テスト平均点（小学校） 72点		成果指標の実績値 (H30年3月31日時点)	70.9点		
	成果指標の達成状況	○	(左の理由)	目標値近似値のため。			
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期	(理由)	(時期)				
本年度の事業実績が成果指標の達成に与えた効果 ※未達成の場合も効果を記載すること	学力テスト平均点においては、中学校は前年度実績値を下回ったものの、高い水準を保っている。勉学に励むための安心できる学習環境が維持できていると考えられる。また、計画的な事業の実施により、中学校空調整備事業は平成29年度に完了し、平成30年度より運用開始する。小学校空調整備事業は平成30年度に整備完了予定である。空調による学習環境の更なる向上に加え、子どもたちが安心安全の中でより勉学に集中できる環境づくりに努める。 ※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方策についても記載すること。						
本プロジェクトに対する自己評価	関連事業との連携効果	ハードとソフトの両面から教育環境の底上げ・向上を図るのに加え、町の「健康は心身の両面の健康によって成り立つ」という考えからプロジェクトを作成しており、関連事業を含めて包括的な安心・安全の教育環境整備を図ることができた。					
	住民の自治意識を高める成果	学校区のボランティアや地域の方々の協力のもと、地域ぐるみでの子育て・教育ができた。					

（記載要領）

- プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは—を記載すること。

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成29年度分）

団体名：精華町

プロジェクト名	命を大切に安全・安心のSafety town プロジェクト		実施期間	平成29～31年度	テーマ	まちの安心・安全	新規・継続の区分	新規
地域における現状、課題及び住民ニーズ	「精華町第5次総合計画中間評価に向けた住民意識調査」より、安全・防犯に対する町民意識の重要度・満足度は前回の意識調査に比べ向上しているが、一部の地域では道路の拡幅や街灯の増設等、安全なインフラ整備を求める声が多く挙げられている。また、東日本大震災の影響や今後被災が予想される南海トラフ大震災への急速な対策が必要とされており、広域災害における近隣・遠隔地の自治体などとの相互応援体制における連携強化を図る必要がある。							
プロジェクトの目的及び概要	日常時への対策においては、道路照明のLED化等道路の安全向上と防犯啓発に取り組む。また、非常時への対策においては、防災行政無線整備事業を中心に、危機対策へのインフラ整備と、町民の危機対応力を向上する取り組みを行う。これらの取り組みをもって災害に強いまちづくりを目標に「災害時一人も見逃さない」共生社会をめざす。							
	総事業費（千円）	304,714	本年度事業費（千円）	71,192	交付金額（千円）	10,642		
プロジェクトを構成する事業の平成29年度事業実績（出来高数値等）								
事業分類	事業名	事業種別	事業概要			主な実績（出来高数値等）		
市町村実施事業	ゾーン30等交通安全対策工事	交付対象事業	ゾーン30路面標示整備、交通安全灯・カーブミラーの設置等道路の安全向上整備工事。			ゾーン30に伴う交通安全施設整備完了 カーブミラー新設 8地区・8基、交通安全灯新設11地区・28基		
	交通安全灯・道路照明LED化整備事業	交付対象事業	道路の安全性向上等を目的としたLED化工事。			交通安全灯LED化：灯具取換え732灯、新設（山手幹線）15灯 道路照明LED化：灯具取換え90灯		
	ツアー・オブ・ジャパンのコースを含む道路改良単費事業	交付対象事業	道路改良工事による交通安全の確保と生活基盤の拡充。また、ツアー・オブ・ジャパンに向けてのコース等の整備。			南福、北ノ堂線の道路改良測量等調査完了 柘榴、南福地区の道路改良工事完了		
	水道事業特別会計負担金	交付対象事業	一般会計が全額負担する、簡易水道債の元利償還金。			-		
	集中豪雨等対策工事事業	交付対象事業	集中豪雨等による水害多発箇所の治水機能向上工事。			滝ノ鼻地区排水路整備工事完了 東畑南谷地区排水路整備工事完了		
	緊急備蓄物整備事業	交付対象事業	大規模災害発生時において避難所で使用する物資の購入。			アルファ化米7,000食、保存水3,000本、缶入りパン2,000食、毛布250枚購入		
	自立型再生可能エネルギー導入促進事業	関連事業	町内で住宅用太陽光発電設備及び住宅用蓄電設備を設置する者に対し、町がその費用の一部を補助。			住宅用太陽光発電設備及び住宅用蓄電設備の同時設置に対する補助 6件		
	防災行政無線整備事業	関連事業	災害情報の伝達手段の多重化・多様化のため行う防災行政無線の整備工事。			-		
	「京都やましろ茶いくるライン」整備事業	関連事業	「お茶の京都」等の拠点を自転車で周遊する「京都やましろ茶いくるライン」の整備工事。ツアー・オブ・ジャパン京都ステージのコースが位置付けられている。			全長4,000m計画の内、約62%（2,495m）完了 平成29年度工事：2,360m		
住民協働事業	交通安全対策費事務経費	関連事業	交通安全対策：交通安全灯・カーブミラーの維持管理、交通安全啓発用品の購入（看板、横断旗等）、交通安全運動街頭啓発活動の実施等。			交通安全灯272灯、カーブミラー2基修繕		
	地域防犯対策推進事業	関連事業	防犯対策に係る消耗品（防犯啓発看板等）の購入・活用、町内4支部（狛田・祝園・光台・精華台）の各種活動及び運営に関する町助成。			狛田第3自転車駐車場に防犯カメラを設置		
住民が取り組む事業	住民防火指導事業	関連事業	自主防災会が行う消火訓練や消防資機材の取扱訓練、救出救護体制の指導、一人暮らしの高齢者宅の防火訪問等を実施し、火災予防を啓発する。			消火器・消火栓・防災資器材取扱訓練（実施：14回、参加者：569名） 管外研修（7回、208名）、起震車による地震体験会（5回、241名） 防火講話（9回、339名）		
	防火防災組織助成事業	関連事業	各自治体の防火防災組織に対する防災訓練や啓発活動などに対する助成。			各種訓練等の参加者数 自主防災組織：1,357名、 婦人防火クラブ：68名、幼年消防クラブ：9,847名		
成果指標①	成果指標の目標数値	道路改良率（町道全延長） 55.0%			成果指標の実績値（H30年3月31日時点）	54.70%		
	成果指標の達成状況	○	（左の理由）			前年度実績値（54.6%）を上回ったため。		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）			（時期）		
成果指標②	成果指標の目標数値	歩道整備延長 34,082m			成果指標の実績値（H30年3月31日時点）	34,105m		
	成果指標の達成状況	◎	（左の理由）			目標値を上回ったため。		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）			（時期）		
成果指標③	成果指標の目標数値	交通安全運動等参加者数 200名			成果指標の実績値（H30年3月31日時点）	168名		
	成果指標の達成状況	△	（左の理由）			前年度実績値（191名）を下回ったため。		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）			（時期）		
本年度の事業実績が成果指標の達成に与えた効果	計画的な工事の実施により、目標数値を達成できた。交通安全運動等参加者数においては成果指標は未達成であるが、平成27年度実績値（153名）と比較すると伸びているため、引き続き啓発活動に取り組む。							
※未達成の場合も効果を記載すること	※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方針についても記載すること。							
本プロジェクトに対する自己評価	関連事業との連携効果	日常非常の両面から安全対策への包括的な対策がとれている。						
	府と市町村等との連携に資する成果	「京都やましろ茶いくるライン」の整備において、京都府および京田辺市との連携によってサイクリングを目的とする観光客の誘致を促進することができた。						
	住民の自治意識を高める成果	自治体の防火防災組織の新規結成や、防災訓練の実施等、「自助・共助」の意識の高揚に努めた。						
	広域的波及成果	「お茶の京都」と連携することで、観光誘致を促進することができた。						
	その他の成果	災害時避難に向けての準備・対策を進めることができた。						

（記載要領）

- 1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 2 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 3 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 4 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは—を記載すること。

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成29年度分）

団体名：精華町

プロジェクト名	将来を見据えた笑顔あふれるSmile town プロジェクト		実施期間	平成29～31年度	テーマ	その他（住民の生活支援）	新規・継続の区分	新規
地域における現状、課題及び住民ニーズ	住民意識調査(中間)によれば、本町における子育てに対する住民の満足度・重要度は高い水準が保たれているが、高齢福祉・障害福祉に対する満足度・重要度は5年前の住民意識調査に比べ大きく低下している。また、生活に必要な店舗の不足や、交通の利便性、新興住宅地と旧地域の間の格差等が課題となっている。インフラの整備や支援事業の更なる充実に加え、支援や保護を必要とする人を含め、すべての町民が互いに助け合い見守りあうネットワークの再構築が求められている。							
プロジェクトの目的及び概要	生活において支援や保護を必要とする人々を含め、すべての住民が活発で充実した生活をおくれるよう支援する。子育て、高齢・障害福祉においては、心身の健康維持や経済の助成に加え、住民同士による自立支援と助け合いのネットワーク構築に取り組む。また、暮らしにおいては、旧地域の整備・開発を中心に、住民の生活環境の利便性向上を図り、交流の場を提供する等して地域格差の課題に取り組む。							
	総事業費（千円）	330,340	本年度事業費（千円）	99,475	交付金額（千円）	4,623		
プロジェクトを構成する事業の平成29年度事業実績(出来高数値等)								
事業分類	事業名	事業種別	事業概要			主な実績（出来高数値等）		
市町村実施事業	地域福祉センター長寿命化事業	交付対象事業	トイレ等バリアフリー化工事の実施。			トイレバリアフリー化工事完了、LED設計業務完了		
	菅井西・植田南市街地整備事業	交付対象事業	学研地区のエントランスゾーンとして良好な市街地整備のための計画策定。			-		
	地域生活支援事業	関連事業	在宅の障害者の日常生活や社会参加活動を支援。訪問入浴サービス、移動支援、一時支援(日帰りショートステイ)等。			障害者相談件数:1,364件		
	産学公連携プラットフォームインキュベーション事業	関連事業	同志社大学及び京都府内の企業と連携して行う、本町が実施する「健康ポイントシステムを活用した健康増進サポート事業」におけるモニター実証実験。			アンケート送付件数:220名 イベント(健康ポイント付与対象事業)の実施回数:25回		
	コミュニティバス実証運行事業	関連事業	コミュニティバスを高齢者や交通弱者の移動手段として、公益性の高い施設を結び、地域交流の促進を図り、福祉を増進する。			年間利用者数:74,667名		
住民協働事業	障害福祉計画策定事業	交付対象事業	障害福祉に関する地域の諸課題について協議するための計画策定業務委託。			全体会2回、住民参加部会5回、権利擁護部会8回、発達支援部会1回		
	健康づくり推進計画策定事業	交付対象事業	住民の健康増進のための、計画策定。			町民健康づくり推進協議会年間開催数:3回		
	子育て支援センター運営事業	関連事業	出前保育の実施や子育て支援室及び用品の貸出など育児サークルの支援、町内育児サークル代表者との交流会の開催、せいか子育て情報紙「SUKUSUKU」の発行等。			利用登録者数:152名、のべ利用者数:7,747名		
	放課後児童クラブ運営事業	関連事業	昼間保護者のいない家庭における小学校児童を対象として、遊びを主とする健全育成活動を行う児童クラブを設置。			全放課後児童クラブ年間平均利用児童数合計:622名		
	老人クラブ助成事業	関連事業	高齢期における生活の充実や在宅福祉を支える相互支援活動の促進を目的に、老人クラブの活動を助成する。			27クラブ、クラブ員総数2,171名		
	インクルーシブ・ソサエティ	関連事業	東京パラリンピック開催を契機として、障害のある人にもない人にも、パラスポーツ(障害者スポーツ)を通じて、相互理解を深め、パラスポーツの楽しさや魅力を発信することを目的とした交流イベントなどによる普及啓発。			障害児者ふれあいのつどい事業参加人数:469名		
	地域支え合い体制づくり事業	関連事業	認知症カフェの実施、障害者差別解消法対応要領策定に伴う調査事業等。			認知症あんしん見守りシンポジウム参加者数:約140名		
	せいか絆ネットワーク構築支援事業	交付対象事業	地域内で要配慮を必要とする方々に対して、相談できる担い手同士のネットワークづくりを行う。			絆ネットワークコーディネーター1名配置		
住民が取り組む事業	環境啓発事業	交付対象事業	環境啓発イベントや環境日記等のとりくみ。			精華町環境推進委員会2回開催、精華環境プラットホーム4回開催		
	地域交流活性化支援事業	関連事業	人権センターの「ははその森ふれあい文化祭」「小学生体験学習」の開催による、地域住民の交流促進。			小学生体験学習 実施回数4回、参加者数42名		
成果指標①	成果指標の目標数値	健康増進活動プロジェクト参加者数 10,500名		成果指標の実績値 (H30年3月31日時点)		9,464名		
	成果指標の達成状況	△	(左の理由)	前年度実績値(10,305名)を下回ったため。				
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)		(時期)			
成果指標②	成果指標の目標数値	クリーン・リサイクル運動参加者数 14,600人		成果指標の実績値 (H30年3月31日時点)		14,158人		
	成果指標の達成状況	△	(左の理由)	前年度実績値(14,463名)を下回ったため。				
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)		(時期)			
本年度の事業実績が成果指標の達成に与えた効果	目標数値には到達できなかったが、住民がまちづくりに参加しやすい機会の創出や地域社会での共助を促進するつながりの構築・維持により、住民協働の地域社会形成に努めた。健康ポイントシステムを活用した健康増進サポート事業等、住民がより積極的に参加できるような取り組みを努める。							
※未達成の場合も効果を記載すること	※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方針についても記載すること。							
本プロジェクトに対する自己評価	関連事業との連携効果	全ての人が暮らしやすい共生社会を目指して、社会的弱者や要配慮者が生活しやすい環境づくりを行った。						
	住民の自治意識を高める成果	事業アンケートや計画策定への住民参加によって住民と協働することができた。						
	リーディング・モデル成果	健康づくりプロジェクトの「せいか食育劇団もぐもぐ」が優れた「早寝早起き朝ごはん」運動に係る文部科学大臣表彰を平成28年度に受賞するなど、その取組は先行事例として評価を受けている。						

(記載要領)

- プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは―を記載すること。

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成29年度分）

団体名：精華町

プロジェクト名	学研都市を活用した交流連携のScience townプロジェクト		実施期間	平成29～31年度	テーマ	その他（地方創生）	新規・継続の区分	新規
地域における現状、課題及び住民ニーズ	住民意識調査（中間）によれば、本町における観光・企業誘致に対する重要度・満足度は共に低い。また、交流連携においては、以前は高かった水準が大きく低下しており、地方創生の進みに比べ、精華町の魅力が町内外に十分に発進されていないという課題が浮き彫りになっている。今一度住民ニーズや観光資源、都市計画を見直し、魅力的なイベントや観光・誘致企業の、住民や連携地域とのインタラクティブな情報発信を行い、町全体で地方創生に取り組んでいく必要がある。							
プロジェクトの目的及び概要	京都府と山城12市町村で取り組む「お茶の京都博開催事業」や、学研都市における新たな文化創造に向けたサブカルチャー振興事業等、広域連携事業によって交流人口の拡大を図り、町の観光推進・魅力発進を行う。また、学研都市の美しい景観や環境の保全と、研究産業等の企業誘致を積極的に行うとともに、町の中小企業の支援を行うことで、経済の促進を図る。							
	総事業費（千円）	162,471	本年度事業費（千円）	48,193	交付金額（千円）	4,543		
プロジェクトを構成する事業の平成29年度事業実績（出来高数値等）								
事業分類	事業名	事業種別	事業概要			主な実績（出来高数値等）		
市町村実施事業	ツアー・オブ・ジャパン開催事業	交付対象事業	学研都市活性化を目的として、立地を活かしたロードレース大会を開催。			観客動員数：50,000人		
	企業誘致促進事業	交付対象事業	学研都市にふさわしい研究開発型産業施設やベンチャー企業等の誘致及び人材確保の支援。			立地決定企業数：44社		
	学研都市環境保全事業	交付対象事業	学研都市としての、研究施設や産業計研究施設立地に関する環境管理・保全。			研究施設環境管理状況評価業務立入事業所：6事業所 産業立地促進環境保全審査業務相談件数：23件		
	新公共交通システム導入事業	交付対象事業	輸送力強化を目的とした連結バスの導入に向けた、駅周辺の整備工事。			駅周辺整備工事完了		
	京都アカデミック産業創造事業	関連事業	京都精華大学等の大学機関との連携のもと、けいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)を拠点として、「科学のまちの子どもたち」プロジェクトの推進やサブカルチャーに関する創作活動支援を行うほか、「精華町地域創生戦略」に基づくシティプロモーションを推進するため、学研都市精華町のPRに向けたイベント、フォーラム等の開催のほか、地域資源や特産品などを活用して町の魅力を内外に発信する取り組みを進める。			京町セイカSNS総フォロワー数：5,938		
住民協働事業	SEIKAサブカルフェスタ開催事業	交付対象事業	学研都市精華町のPRと交流人口の拡大を目的に、サブカルチャーを用いたイベントを開催。			来場者数：約3,000名		
	今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業	関連事業	体験型観光商品開発に向けた葺園等の経営ノウハウの指導・助言、特産品の洗いもの観光商品化支援等、「お茶の京都」との連携を図った観光農業の推進。			日本遺産サミット集客数：22,000名		
	観光推進事業	関連事業	けいはんな記念公園や精華町商工会、NPO法人精華町ふるさと案内人の会などと協力体制をとりながら、各種事業を展開し、町内の観光振興を図る。また、新しい観光資源を題材とした観光パンフレットの作成を行い、精華町の魅力を情報発信する等観光推進活動を行う。			観光消費額：196,658千円		
	科学のまちの子どもたちプロジェクト	交付対象事業	学研都市ならではの科学やモノづくりを学ぶ機会を提供する取り組み。			科学体験フェスティバル来場者数：約2,200人		
	サブカルチャーを軸にした創作活動支援研究拠点整備事業<繰越>	関連事業	科学やモノづくりを学ぶ機会を提供する拠点としてKICK（旧私のしごと館）を活用。			整備工事完了		
	商工会助成事業	関連事業	精華町商工会が行う商工業の振興と町内中小企業の経営安定を図るための事業に要する経費について財政支援を行う。また、精華町商工会において、プレミアム商品券発行事業のプレミアム分の一部を助成する。			プレミアム商品券発行額：1,100万円		
成果指標①	成果指標の目標数値	学研都市イベント参加者数 85,000名			成果指標の実績値 (H30年3月31日時点)	84,852名		
	成果指標の達成状況	△	(左の理由)		前年度実績値（85,659名）を下回ったため。			
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期	(理由)		(時期)				
成果指標②	成果指標の目標数値	研究開発型産業施設誘致数（操業済企業数） 38社			成果指標の実績値 (H30年3月31日時点)	39社		
	成果指標の達成状況	◎	(左の理由)		目標値を上回ったため。			
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期	(理由)		(時期)				
成果指標③	成果指標の目標数値	研究開発型産業施設地元雇用者数 270名			成果指標の実績値 (H30年3月31日時点)	286名		
	成果指標の達成状況	◎	(左の理由)		目標値を上回ったため。			
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期	(理由)		(時期)				
成果指標④	成果指標の目標数値	観光入込客数（観光入込客数統計） 650,000名			成果指標の実績値 (H30年3月31日時点)	663,902名		
	成果指標の達成状況	◎	(左の理由)		目標値を上回ったため。			
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期	(理由)		(時期)				
本年度の事業実績が成果指標の達成に与えた効果	本町独自の観光資源や文化を用いたイベントの開催により、多くの観光客を呼び込むことができた。KICKやけいはんなプラザ等町内施設を活用したイベントの振興により、学研都市けいはんなの魅力発信に今後も努める。							
※未達成の場合も効果を記載すること	※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方針についても記載すること。							
本プロジェクトに対する自己評価	関連事業との連携効果	お茶の京都との連携を図った観光推進によって、精華スイーツタウン等新たな魅力の発信を行った。						
	府と市町村等との連携に資する成果	京都府が所有するけいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)を活用した学研都市ならではのイベント開催によって魅力発信を行った。						
	広域的波及成果	関西文化学術研究都市の中心地である精華で学研都市の特色を活かした取り組みを行うことにより、3府県8市町にまたがる学研都市全体のブランドイメージ向上に資することができる。						

（記載要領）

- 1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 2 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 3 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 4 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは—を記載すること。